



(Photo:松木 絹子(環境フォトコンテスト))

# 第1章

---

## 地域戦略改定にあたって

## 1. 戦略改定の趣旨

本市は、雄大な桜島や波静かな錦江湾（鹿児島湾）のほか、郊外に広がる田園風景、清らかな川や緑鮮やかな森林など豊かな自然に恵まれています。この豊かな自然が、水や空気、食料、温泉などさまざまな恵みをもたらし、また、多種多様な生きものの生命を育てています。

本市においては、生きものの生命を育むとともに、自然や生きものから受けている多くの恵みの持続性が失われることのないように、また、先人から引き継いだ豊かな環境をより良い状態で未来に引き継ぐために、2014（平成26）年3月に、「生物多様性地域戦略～豊かな自然がごしま生きものプラン～」（以下「旧戦略」という。）を策定し、生物多様性の保全に取り組んできました。

現在、自然や自然の恵みは危機的な状況にあるとも言われています。生物多様性及び生態系サービスに関する政府間組織であるIPBES<sup>注</sup>が2019（令和元）年に公表した世界の生物多様性の現状をまとめた報告書によると、「生物多様性の恵みは世界的に劣化しており、また、自然の変化を引き起こす直接的・間接的要因は、過去50年の間に加速している。」と指摘されるなど、地球温暖化の進行や社会環境の変化などにより、このままでは生きものの生息・生育環境への影響が避けられない状況となっています。こういった状況は私たちの暮らしにも影響することが懸念されます。

このような中、生物多様性の危機に世界規模で対応するため、新たな世界目標の策定が予定されており、日本においても、現在、世界の動きに対応した新たな国家戦略の策定が進められています。

本市においても、これ以上、生態系の破壊や現在生息・生育している生きものが失われることのないよう、また、自然や生きものから受けてきた多くの恵みが将来にわたり享受されるよう取り組む必要があり、旧戦略を「第二次鹿児島市生物多様性地域戦略」として改定し、2050（令和32）年の本市のあるべき姿の実現に向けて、取組を推進します。

<sup>注</sup>IPBES…生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム

（Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services）は、世界中の研究成果を基に生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、政策提言を行う政府間組織として2012年4月に設立

## 2. 生物多様性とは

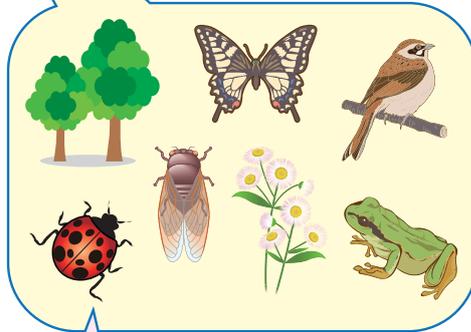
### (1) 3つの多様性

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは38億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、そのすべてが直接的・間接的に支えあって生きています。生物多様性条約<sup>注</sup>では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。



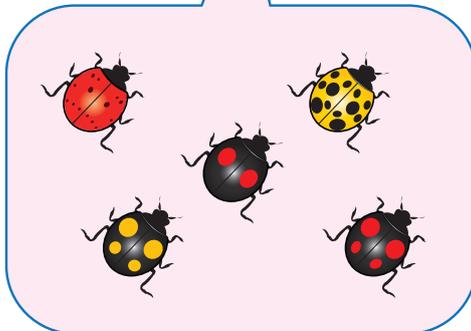
#### 生態系の多様性

本市には森、川、海、里地里山、市街地などさまざまな環境が存在し、そこで人の暮らしも営まれています。それぞれの環境にはその環境にあった生きものが棲んでいます。この生きものとそれが棲む環境、そしてそれらのつながりのことを生態系と呼んでいます。「生態系の多様性」とは、どれだけ多くの生態系があるかということです。



#### 種(種間)の多様性

一つの生態系の中には、さまざまな動物や植物から目には見えないような微生物まで、多くの種類の生きものが棲んでいます。たとえば昆虫というグループの中にもナミテントウやアゲハチョウ、アブラゼミなどさまざまな種がいます。「種(種間)の多様性」とは、そこに棲む生きものの種類がどのくらい豊富であるかということです。



#### 遺伝子(種内)の多様性

テントウムシの一種であるナミテントウは、同じ種の中でも色や模様がさまざまに異なっています。私たち人間でも体質や性格が異なるように、この違いは見た目だけではわからないところにも存在しています。「遺伝子(種内)の多様性」とは、同じ種の中のそれぞれの生きものが持つ遺伝子の違いがどのくらいあるかということです。言い換えれば生きものの持つ個性の豊かさの程度がどのくらいあるかということです。

<sup>注</sup> 生物多様性条約…正式名称「生物の多様性に関する条約：Convention on Biological Diversity (CBD)」

生物の多様性の保全、生物多様性の構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生じる利益の公正で衡平な配分などを目的に掲げている。

## (2) 生物多様性の重要性

私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生きものが関わりあう生態系からの恵み（生態系サービス）によって支えられています。人類を含めて地球上の生命は生態系サービスによって支えられています。

生物多様性を保全し、生態系サービスを持続可能な形で適正に利用することによって、私たちの暮らしと命が守られ、安全に健康で豊かな暮らしが続けられるとともに、地球上でともに暮らすすべての命が育まれます。

### 4つの生態系サービス

#### 基盤サービス

水、酸素、栄養分など生命を維持するための基盤となるものは、植物や分解者（小動物・菌類・微生物など）のような生きものによってもたらされたものです。

#### 供給サービス

米や野菜、魚介類などの食料、木材や綿などの原材料、薬や化粧品などの薬用資源などは多様な生きものによってもたらされたものです。

#### 調整サービス

土砂の流出や崖崩れなど自然災害の防止、きれいな空気や安全な飲み水の確保、気候の安定化、河川の浄化などは、森林や微生物など多様な生きものによってもたらされたものです。

#### 文化的サービス

五穀豊穡を祝う祭、自然の風景などをモチーフとした芸術作品、心の安らぎが得られる空間、レクリエーションの場などは、生きものや自然そのものによってもたらされたものです。



鹿児島市域にみられる自然と生態系サービス

### 3. 改定の背景

#### (1) 世界の動向

##### ① 生物多様性の世界目標

2010（平成22）年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（CBD・COP10）において、2020（令和2）年までに生物多様性の損失を止めることを目的に「愛知目標」が採択されました。

しかし、2019（令和元）年5月のIPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）の「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」では、自然と自然の寄与は世界的に劣化していて、このままでは生物多様性を将来世代に受け継いでいくことや、持続可能な社会を実現することは困難であると指摘されました。一方で、社会変革（transformative change）に向けた緊急かつ協調的な努力により、自然を保全、再生、持続的に利用し、かつ国際的な目標を達成することは可能であるとも述べられました。

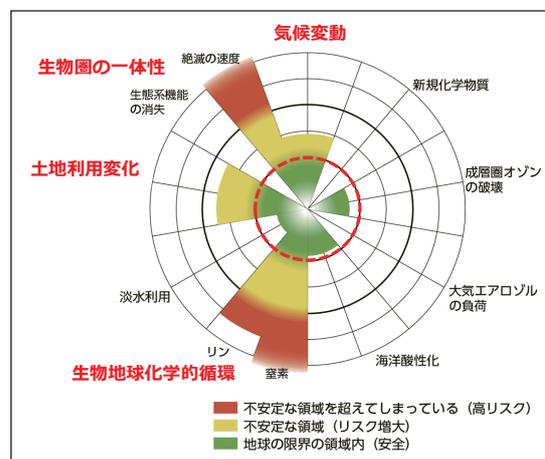
また、2020（令和2）年9月に公表された、「地球規模生物多様性概況第5版（Global Biodiversity Outlook 5（GBO 5）」では、ほとんどの愛知目標について進捗が見られたものの、20の個別目標で完全に達成できたものはないこと、達成できなかった理由として、愛知目標に応じて各国が設定する国別目標の範囲や目標のレベルが、愛知目標の達成に必要とされる内容と必ずしも整合していなかったことが指摘されました。

これらを踏まえ、新たな世界目標「ポスト2020生物多様性枠組」について、2021（令和3）年10月に開催されたCOP15第1部では、「ポスト2020生物多様性枠組」の採択に向けた決意を示す「昆明宣言」が採択され、2022（令和4）年開催予定の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）第2部での採択に向け、国際的な議論が進められています。

「ポスト2020生物多様性枠組」では、2030年までに少なくとも陸域の30%と海域の30%を保全・保護することを目指す目標（30 by 30）が検討されています。

#### コラム プラネタリーバウンダリー

経済発展や技術開発により、人間の生活は物質的には豊かで便利なものとなった一方で、人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境は限界に達しつつあるといわれています。2009年（平成21年）に発表された地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）の考え方によれば、「生物圏の一体性（生物多様性）」については、人間が安全に活動できる境界を越えるレベルであると指摘されています。



出典：Will Steffen et al. 「Planetary boundaries : Guiding human development on a changing planet」より環境省作成

## ② SDGs（エスディーゼイズ）

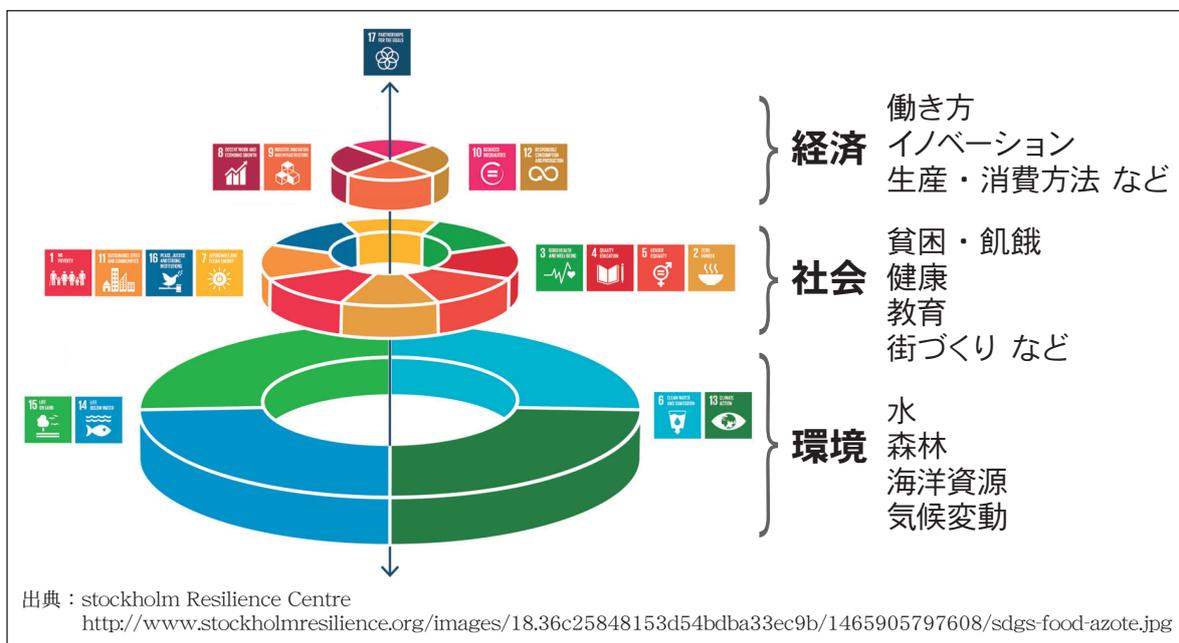
持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015（平成27）年9月の国連サミットで、加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、環境・経済・社会の3つの側面を統合した取組により、持続可能な社会の実現を目指すこととしています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター HP

また、SDGsの17の目標は、3層に分類して総合的に整理した「SDGsのウェディングケーキ図」で表現されます。これは、「経済」は「社会」に、「社会」は「(自然)環境」に支えられて成り立つという考え方を示しています。SDGsの達成のためには、生物多様性の保全が重要とされています。



## (2) 国の動向

### ① 生物多様性国家戦略

2012（平成24）年に、愛知目標を反映した「生物多様性国家戦略2012－2020」が策定されました。

2021（令和3）年3月にまとめられた「生物多様性及び生態系サービスの総合評価2021（JBO 3）」では、「日本の生物多様性の4つの危機<sup>注</sup>は依然として生物多様性の損失に大きな影響を与え、生態系サービスも劣化傾向にある。これまでの取組により、生物多様性の損失速度は緩和の傾向が見られるが、まだ回復の軌道には乗っていない。」と評価しています。

このような状況や世界の動向を踏まえ、現在、次期生物多様性国家戦略策定に向けて検討が進められています。また、2021（令和3）年11月には、新たな世界目標「ポスト2020生物多様性枠組」や次期生物多様性国家戦略における国内目標の達成に貢献するため、産官民の連携による「2030生物多様性枠組実現日本会議（J－GBF）」が設立されました。

### ② 地域循環共生圏

2018（平成30）年4月に閣議決定した第五次環境基本計画では、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」や「パリ協定」といった世界を巻き込む国際的な潮流や複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、複数の課題の統合的な解決というSDGsの考え方も活用した「地域循環共生圏」が提唱されました。「地域循環共生圏」は、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

「地域循環共生圏」は、農山漁村も都市も活かし、我が国の地域の活力を最大限に発揮する構想であり、その創造によりSDGsの実現にもつながります。

注 4つの危機…わが国の生物多様性が直面している危機は、生物多様性国家戦略において次の4つに分類整理されている。

第1の危機：開発など人間活動による危機

第2の危機：自然に対する働きかけの縮小による危機

第3の危機：人間により持ち込まれたもの（外来種等）による危機

第4の危機：地球環境の変化による危機

### (3) 鹿児島市の動向

本市は、始良カルデラの南端の噴火で生じた桜島を中心とし、「霧島錦江湾国立公園」に指定されています。2012（平成24）年には、錦江湾地域拡張により、カルデラ壁の一部である吉野、早崎の岩壁を含む一帯が区域に編入されました。

2013（平成25）年には、錦江湾を中心とした範囲の「桜島・錦江湾ジオパーク」が、日本ジオパークに認定を受け、2021（令和3）年2月には、鹿児島市、垂水市、始良市全域へのエリア拡大が認定されました。

また、「旧集成館（反射炉跡、機械工場、旧鹿児島紡績所技師館等を含む）」・「寺山炭窯跡」・「関吉の疎水溝」が、2015（平成27）年に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録されました。

2019（令和元）年12月には、2050（令和32）年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする都市の実現に、市民や事業者等と一体となって取り組むことを決意し、「ゼロカーボンシティかごしま」への挑戦を宣言しました。

さらに、2020（令和2）年7月には、環境・経済・社会の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として「SDGs未来都市」に採択されました。2020（令和2）年9月には、「SDGs未来都市」に関する施策を総合的かつ計画的に推進する「鹿児島市SDGs未来都市計画」を策定し、国際社会全体で取り組む共通目標であるSDGsの実現に向けた取組を行っています。

#### **コラム** SDGs 未来都市

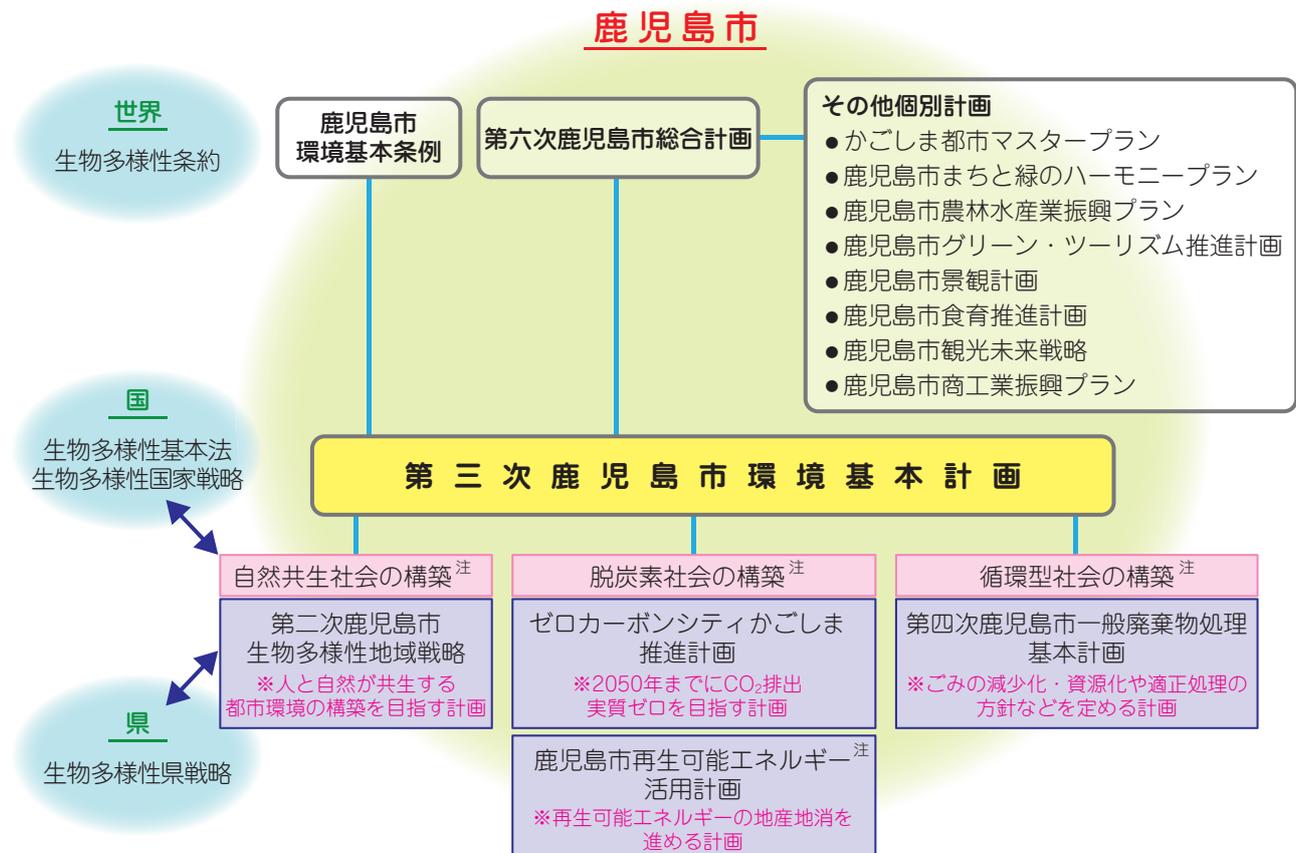
SDGs未来都市とは、国がSDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を「SDGs未来都市」として選定するものです。

鹿児島市は、SDGsを共通目標として、その特性や地域資源をさらに活かし、多様な主体が連携・協働して“豊かさ”を実感できるまちづくりを進めて、持続可能な社会を目指すという提案を行い、2020（令和2）年7月17日「SDGs未来都市」に選定されました。

## 4. 地域戦略の姿

### (1) 戦略の位置づけ

本戦略は、生物多様性基本法第13条に基づく、本市の生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画です。また、鹿児島市環境基本計画の個別計画としても位置付けられます。



注 自然共生社会…生物多様性のもたらす恵みを将来にわたって継承し、自然と人間との調和ある共存が確保された社会

注 脱炭素社会…地球温暖化の原因となる温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを実現する社会

注 循環型社会…製品等が廃棄物となることを抑制し、排出された廃棄物については、できるだけ資源として適正に利用しどうしても利用できないものは、適正に処分することが確保されることにより実現される「天然資源の消費量を減らして、環境負荷をできるだけ少なくした」社会

注 再生可能エネルギー…太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスといった持続的に利用可能なエネルギー。温室効果ガスを排出せず、国内で生産できる。

## (2) 戦略の役割

本戦略は、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組を推進し、市民、事業者、市民活動団体、市などが連携・協働して、自然共生社会を築いていくための取組の方向性を示し、施策を推進するものです。

## (3) 対象区域

鹿児島市域、自然・生きもののつながりを考慮して隣接区域、それに接続する錦江湾を対象区域とします。



## (4) 計画期間

本戦略の計画期間は、生物多様性からみた2050年の望ましい将来像の実現に向け、2022（令和4）年度から2031（令和13）年度までの10年間とします。

### コラム マグマシティPRキャラクター 火山の妖精マグニオン

鹿児島市は、ブランドイメージ「あなたとわくわく マグマシティ」を合言葉に、市内外に鹿児島ファンを増やしていけるように、まちの魅力を知ってもらい、都市イメージを高めていくシティプロモーションに取り組んでいます。

火山の妖精 マグニオンは、“桜島”のマグマのような情熱や温もり溢れる鹿児島市民の気質を表現したマグマシティPRキャラクターです。本市ブランドイメージに込めた“人と人が交流する中でわくわくする未来を紡いでいこう”という想いやまちの多彩な魅力を伝えるストーリーテラー（語り部）です。



ベビニオン      マルニオン      リキニオン      メガニオン

マグニオンは、「桜島」から生まれた“火山の妖精”。はるか昔から鹿児島ので、暮らしていました。

性格は、熱く、温情にあふれ、陽気で元気。だれにでも温かく、元気と勇気を与えてくれます。

そしてこの妖精は、今もカタチを変えて、現代の鹿児島市民の心の中に息づいているのだそう。

ときおり桜島から舞い落ちる火山灰の一粒一粒にマグニオンが宿っているのかもしれない。

